

地域医療連携における電子お薬手帳の活用に関わる運用モデルの検討

○^{おかざき}岡崎 光洋¹⁾、^{みつひろ}山浦 克典²⁾、野本 禎³⁾、山浦 知之⁴⁾、
飯島 伴典⁴⁾、飯島 康典⁴⁾

¹⁾北海道薬科大学、²⁾千葉大学大学院薬学研究院、

³⁾東日本メディコム(株)、⁴⁾一般社団法人上田薬剤師会

【目的】 個人が健康管理に取り組める環境を実現するため、自らの医療・健康情報を電子的に管理・活用するための全国レベルの情報提供サービスを創出する為の「どこでも MY 病院構想」が実現されつつある。第一段階として、お薬手帳の電子化の実証実験やサービス提供が始まっている。どこでも MY 病院構想では、お薬手帳の電子化のメリットとして、持参率の向上、医療安全の向上、長期間情報の管理が容易等の利点が想定されている。今回我々は、スマートフォン（以下、スマホ）で利用する電子お薬手帳アプリを作成し、薬局での運用モデルに関する検討を行っている。そこで、調剤業務において電子お薬手帳に期待される機能及び記録内容について、薬局薬剤師にアンケート調査を行った。さらに、既存の紙媒体でのお薬手帳と異なり、電子版ではスマホを受付時に預かることは難しい事や、電子データ活用のために薬剤服用歴システムにデータを移す事が出来ない事について、スマホアプリの改修を行い、電子お薬手帳を活用するための運用モデルを検討した。

【方法】 研究に用いた電子お薬手帳アプリ「おくすり手帳」は、iOS 版と Android 版の両スマホで利用できる用に、独自に開発した。アンケートは、薬局の薬剤師を対象として、インターネットを利用して行った。また、電子薬歴で電子お薬手帳のデータを利用できるようにするため、NFC を搭載した Android 版スマホからデータを受け取れる電子薬歴の開発を行う。

【結果・考察】 有効回答者の 46% が電子化について [とても賛成] [どちらかと言えば賛成] を選択していた。また、現在のお薬手帳の活用から、電子お薬手帳に期待される記録項目には、調剤された医薬品に関わる記録の他に、[既往歴] [アレルギー] [妊娠の有無] やバイタルサインがあげられた。また、NFC 搭載 Android 版スマホを利用した、電子お薬手帳の運用に関わる調査については、調剤フローに合わせて比較検討を行う。

【キーワード】 スマートフォン、お薬手帳、電子版お薬手帳、電子薬歴、NFC